

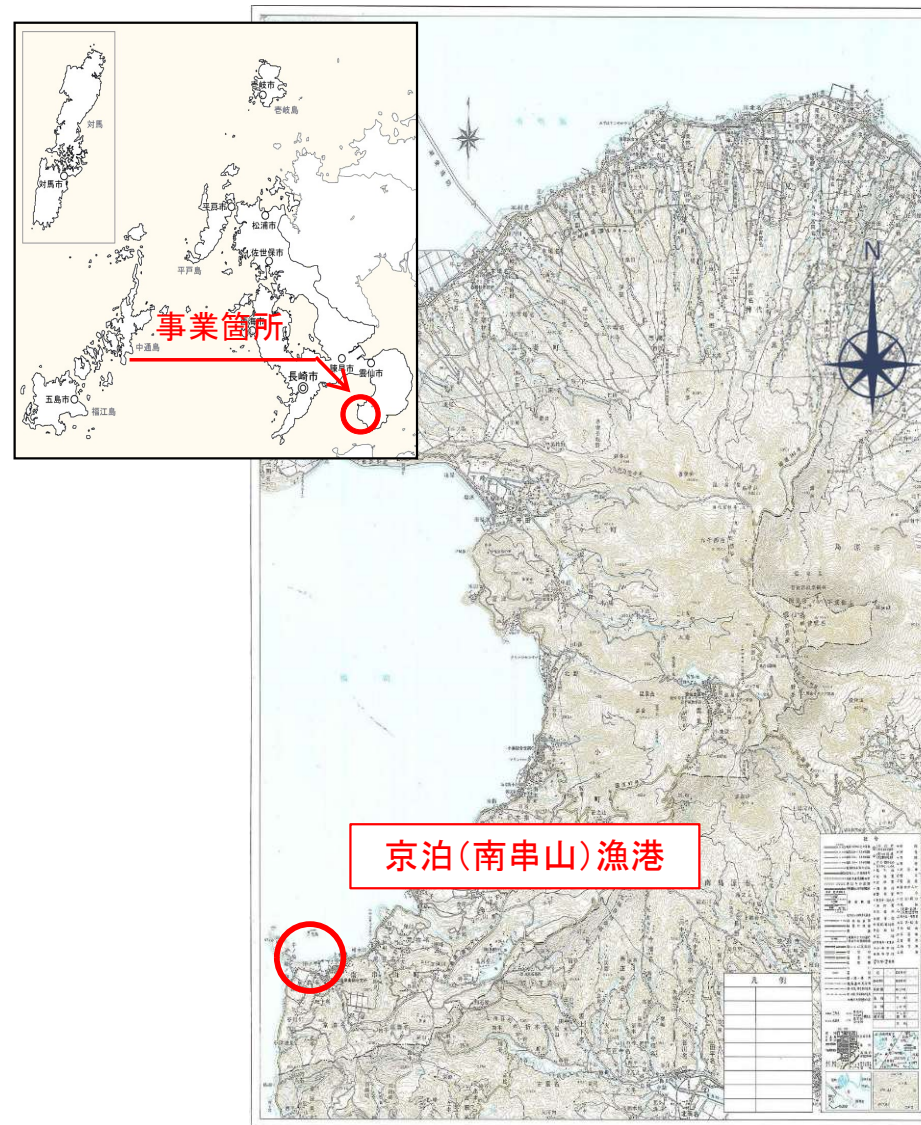
令和7年度 第1回 長崎県公共事業評価監視委員会

再評価対象事業

漁港－2 漁港整備事業
京泊(南串山)漁港

事業主体 雲仙市

再評価
の理由 社会経済情勢の変化等



1. 審議経過

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B / C	概要
		着工	完了			
当初 (R3新規)		R3	R7	12.3	1.93	岸壁 183m 泊地 10,450m ² 道路 10m 用地 4,400m ²
第1回審議 (R7)	社会経済情勢の 変化等	R3	R11	28.4	1.22	岸壁 210m 泊地 10,450m ² 道路 55m 用地 4,440m ²

2. 目的・事業概要



●事業の目的

京泊（南串山）漁港は、カジキ大目流し網漁業やサンマ棒受網漁業を支える根拠地であるとともに、沿岸漁業や静穏な海域を活用したブリ等の養殖業の根拠地であり、圏域内の総生産額の約5割を占める水産物を取扱うなど、地域の水産物生産の拠点漁港として重要な役割を担っている。

近年、当地区では漁船の大型化が進んでいるが、当地区には大型漁船に対応した係留施設がなく、防波堤への係留を余儀なくされている。また、漁港施設用地が狭隘なため、漁具の補修ができるスペースが少なく、他港まで漁具を運搬し補修を行うなど、重労働かつ非効率な作業を強いられている。このため、岸壁、泊地、用地及び道路を整備し、労働環境改善による漁業者の確保や漁業活動の安全性、効率性の確保を図るものである。

3. 事業の効果・必要性

【岸壁、泊地】

大型漁船に対応する係留施設が不足しており、やむを得ず防波堤の裏に係留して出漁準備を行っている。このため、運搬車両の進入が困難で人力で漁具の積降しを行っており、危険で非効率な作業となっている。



令和2年1月撮影

大型漁船に対応した岸壁、泊地を整備することにより出漁準備作業の効率化及び安全性の向上を図る。

【用地、道路】

漁具の補修スペースが不足しており、やむを得ず他港で補修するなど対応しているが、用地が狭隘なため補修作業に時間を要している。



令和2年1月撮影

道路、用地を整備することにより漁業活動等の安全性・効率性の向上を図る。

4-1. 事業の進捗状況(事業費の見直し①)

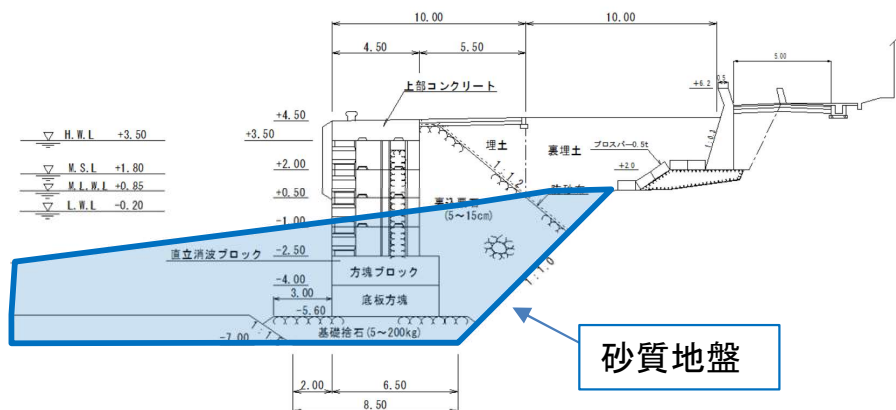
【事業費増】12.3億円(前回)→28.4億円(今回)

事業増の内容		増額	主な増額理由
1	岩盤の判明	約13.1億円	岸壁の床掘、泊地の浚渫、残土処理費用の増
2	その他	約3.0億円	資材単価や労務単価の上昇
計		約16.1億円	

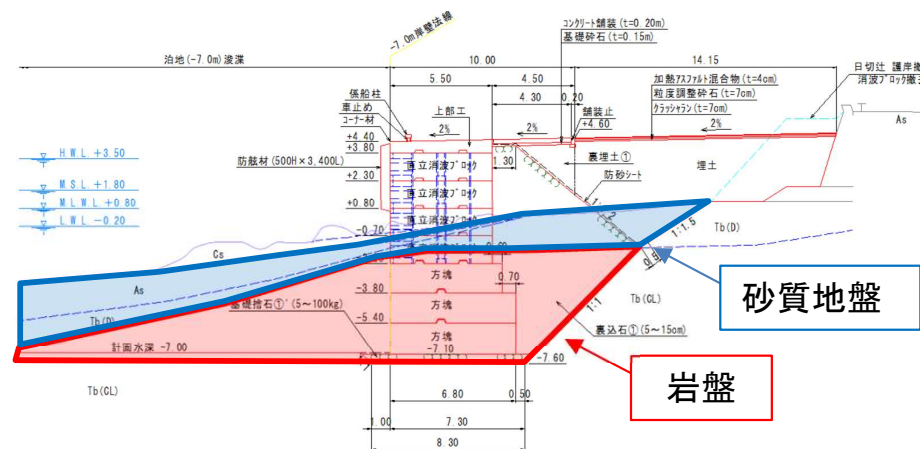
①岩盤の判明(約13.1億円)

当初砂質地盤を想定していたが、地質調査の結果、岩盤があることが判明した。このため、岸壁の床掘、泊地の浚渫、残土処理費用の事業費を増額する。

当初想定断面

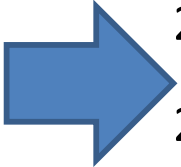


地質調査後断面



4-1. 事業の進捗状況(事業費の見直し②)

②その他: 資材単価や労務単価の上昇(約3.0億円)

	令和3年度(前回)		令和7年度(今回)
捨石(5~200kg)	5,450円/m ³		7,950円/m ³ 約45%増
栗石(5~15cm)	3,300円/m ³		4,100円/m ³ 約25%増
コンクリート	13,950円/m ³		20,950円/m ³ 約50%増
特殊作業員	20,300円/m ³		24,600円/m ³ 約20%増
土木一般世話役	22,400円/m ³		28,300円/m ³ 約25%増
普通作業員	17,600円/m ³		20,800円/m ³ 約20%増
普通船員	22,000円/m ³		25,800円/m ³ 約15%増
潜水土	39,200円/m ³		44,900円/m ³ 約15%増

4-2. 事業の進捗状況(事業期間の見直し)

◆事業期間の見直し

【完了時期】 R7(前回) ⇒ R11(今回)

事業期間延伸要因:地質調査による岩盤の判明によるもの

【前回】

総事業費:12.3億円	R3	R4	R5	R6	R7
測量・調査・設計					
岸壁					
泊地					
道路					
用地					

【今回】

変更理由:当初砂質地盤を想定していたが、地質調査の結果、岩盤があることが判明した。そのため、岩盤の床掘、泊地浚渫の施工能力の低下による遅延が発生した。これに伴い、事業期間を4年延長する。

総事業費:28.4億円	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
測量・調査・設計									
岸壁									
泊地									
道路									
用地									

岩盤の床掘、泊地浚渫の施工能力の低下による遅延

5. 事業の投資効果

◆ 費用対効果(B/C)

項目	前回評価 (令和3年度)	今回評価 (令和7年度)
残事業	—	2.63 = 31.1億円 / 11.8億円
全事業	1.93 = 21.1億円 / 10.9億円	1.22 = 31.1億円 / 25.4億円

〔費用〕

- ・係留施設整備に要する費用、水域施設整備に要する費用

〔便益〕

- ・水産物生産コストの削減効果、漁業就業環境の向上、漁業外産業への効果

〔プラス要因〕

- ・対象漁船隻数の増加による便益の追加
- ・原単位(価格)の増加

〔マイナス要因〕

- ・事業費の増
- ・工期の延長
- ・資材・労務費の単価上昇

◆ B/Cでは計測できない効果

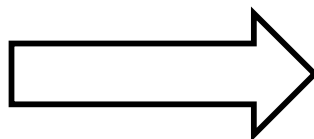
- ・漁業者の安心度の向上

6. 対応方針(原案)

- 京泊（南串山）漁港は圏域内の総生産額の約5割を占める水産物を取扱うなど、地域の水産物生産の拠点漁港として重要な役割を担っている。
- 本事業は操業機会の増加による水産物の安定的な供給体制の構築、漁業者の労働環境改善、漁業活動の効率化を図るため、岸壁を整備するものであり、漁業従事者から早期完成が求められている。
- 事業進捗率は事業費ベースで33.5% [9.5億円/28.4億円]（令和6年度）となっている。
- 可能な限りコスト縮減を図ってきており、事業効率化に大きく寄与する新たなコスト縮減は見込めず、また、代替案の可能性はない。

上記の理由により、整備効果が十分に見込まれる事業であることから、引き続き継続

対応方針
(原案)



継続